

丹波新地域ビジョン検討委員会 第2回学識者部会 記録

1 開催日時 令和3年11月30日(火) 13:30～16:40

2 場 所 兵庫県民会館1201号室

3 出席者

角野委員長(部会長)、上甫木委員、清水(夏)委員
光井委員、平櫛委員

事務局

丹波県民局：今井県民局長、柳瀬県民交流室次長、西原班長、竹村
本庁ビジョン課：吉住主幹

4 内 容

(1) 開会

(2) 議事

- ・全体の構成
- ・第VI章「将来像実現に向けたシナリオ・方向性」の内容
を中心に議論

(3) 閉会

5 議事録

<第1回学識者部会からの修正内容>

角野部会長

- ・本日の資料内容で、前回皆さんから頂いたご意見は反映されているか。その部分も含めてご意見を伺いたい。

括弧書きについて

委員

- ・言葉に括弧がついた表記が多い。括弧は補助的なものなので、本当に伝えたいところ以外は使わない方がよい。

角野部会長

- ・完全に消すという方法と、文章化する方法がある。

委員

- ・全体の文章をチェックする係がいてもよい。

SDGsについて

委員

- ・SDGsについて、17の目標のうちいくつかをピックアップしてしまうと、取り上げなかったものについての意見が出てくる。

今井局長

・丹波の森づくりでは、必ずしも取り組んでいない分野がある。

委員

・目次を見ると内容が多く感じるのので、本編はライトにして、資料編のSDGsの解説で「丹波の森ではこうです」と言うのも良いのでは。

委員

・丹波ではすでにやっていると言ってしまって、資料編に持って行ってしまおうとよい。

その他表現について

委員

・男女の平等意識の記載については、今の時代では当然のことなので、あえて言わない方がよい。マイノリティについても同様。施策にも特に触れられていないということもある。

委員

・ポストコロナということばも、2～3年後にはもうないかもしれない。迷ったところはカットしてよいのではないか。
・環境変化のところでは、「2050年」というワードが何度も出てくるので少しくどいように感じる。

角野部会長

・前提条件でなくなっている可能性が高いものについて、考えておく必要がある。

<全体の構成>

委員

・第Ⅰ部までで色々な条件整理がされて、第Ⅱ部で、端的にやりたいことを分かりやすく書いたらよいのでは。深読みしたい人はまた戻ればよい。Ⅲ章（将来リスクと可能性の話）が第Ⅱ部に出てくると重い。

委員

・基本はⅣ章（めざすべき地域社会の姿、2050年の地域社会像）を読んでもらう。でもそれだけでは分からないので、「新ビジョンの役割、構成」とⅣ章だけを本編という扱いで、他はイントロダクションとして分けて扱ってもよいのではないか。

委員

・冊子で読むときは前から順に見るが、ウェブで見るときは本編から見る人が多いことを考えると、第Ⅰ部、第Ⅱ部の分け方でよい。全体を通して見る人は多くないのではないか。

今井局長

・3月に開催予定の丹波の森夢会議では、15ページくらいの概要版を印刷して配る予定。一般の人にとっては、そちらを本編とさせていただくのもある意味よいと考える。

角野部会長

・冊子としては、第Ⅰ部、第Ⅱ部の分け方でよいと考える。手順としては、圧倒的に読む人が多い第Ⅱ部をまずきちんと作る。アピール力や、それに基づいたプロジェクトがうまく流れているかをはっきりさせることが重要。

- ・第Ⅰ部は、説得力のある事実関係や将来認識がなされているかをしっかりと見る。
- ・ちゃんと使い分けるためには、Ⅱ部構成がよい。

<第Ⅵ章「将来像実現に向けたシナリオ・方向性」>

委員

- ・シナリオという言葉が、本文では使われていない。ややこしいので、なくすとよい。

委員

- ・2025年の大阪・関西万博はどうしていくのか。フィールドパビリオンを作っていく動きは他でも進んでいる。万博が終わった後の2025年～2030年に向けての方向性だけでも入れておいた方がよいと感じる。

委員

- ・シンボル・プロジェクトの説明は、プロジェクトごとにやる方が読みやすい。

今井局長

- ・シンボル・プロジェクトから逆引きできるような図が必要だということは認識しており、現在作成しているところ。

委員

- ・シンボル・プロジェクトも、後半にいくと再掲が多い。星取り表のように合致させる方がよい。

委員

- ・連携する仕組みはどうなっていくのか。中心はここにいる先生方だったり、丹波の森公苑といったところになるのか。皆さんがうまく関わりながら皆が活躍できる仕組みは面白いし、考えていきたい。

委員

- ・DX、MaaS、MICE、インターンシップなどは、なるべく平易なことばで記載する。
- ・複数回出てくる言葉は、出てくる度に意味が違って混乱することがないようにする必要がある。

委員

- ・最終的に市民や企業と一体となっとうまくやらないといけない。行政経由でボールを彼らに投げたとき、どこに興味を持ってもらえるか、分かりやすく表現することが重要。
- ・シンボル・プロジェクトから取り組みますということであれば、それを中心に説明する方が分かりやすい気がする。

今井局長

- ・概要版をA31枚で作ったが、2050年の地域社会像とシンボル・プロジェクトが入っていない。

委員

- ・概要版には、シンボル・プロジェクトは入ってなくても、方針が示されていればよい。シンボル・プロジェクトベースの別資料をつくり、逆引きできるようにすればよい。

<目標値、推進体制>

今井局長

・全県ビジョンでは、数値目標は入れないような形となる予定。地域創生戦略が全県ビジョンの実施計画となるような建て付け。目標というものをどう捉えるべきか、思案している。

委員

・シリ丹バレー構想プロジェクトが再重要だと考える。現時点で漏れている要素は、ここに含まれていると思う。「社会的課題の解決も」という一文を入れると、全てをカバーできるのではないかと。

今井局長

・シリ丹バレー構想プロジェクトがプラットフォームとなると考えており、その事務局が、ビジョンの推進母体になるのではないかと考えている。2月の発足予定だが、そこに求心力を持たせられないかと考えている。

委員

・これまでの書き方だと、よその地域からの人を呼び込むというような書きぶりになっているが、今地域にいる方々の課題も解決し、活躍の場も増やしていく組織だということにする。そうすれば、全てをカバーできる。

角野部会長

・地域ビジョン委員会の体制が変わるということであれば、それを受け継ぐのがこのプラットフォームだということを、書ける範囲で触れていた方がよい。

委員

・p45の図に、与えられた課題だけでなく、地域として解決すべき課題を議論するという機能も入れるとよいのでは。

委員

・プロジェクトがうまくいくかどうか、ビジョンの達成を示すと思う。ビジョンにはKPIを示さず、プロジェクトごとにKPIを決めてスタートさせるというような、やり方を明記しておく。

委員

・プロジェクト間での情報等の共有を行うことで、かなり発展することも出てくると思う。平面的でなく、連絡会議のような体制も含んで運営するということを書き込んでもよいのでは。

委員

・たんばユースチームに、横断的・総合的な評価をしてもらうということができれば、次世代に自分ごととして考えてもらう意味で面白いと思う。